

## 平成 29 年度 記者懇談会（第 10 回）の記録

日 時 平成 30 年 1 月 30 日（火）午後 3 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 8 人

同席者 飯川副市長、天野副市長、総務部長、建設部長、健康福祉推進担当次長

次 第 1 雪対策の進捗状況について

2 その他について



## 1 雪対策の進捗状況について

### 説明内容

#### (市長)

それでは、さっそく説明をさせていただきます。除排雪対策本部を中心に全庁的に取り組んでおります、この冬の総合的な雪対策の進捗状況ということにつきまして、資料に沿ってご説明を申し上げます。

はじめに、雪の状況でございますが、全国的には新潟県での電車の長時間の立ち往生、東京都心での4年ぶり的大雪など、ラニーニャ現象の影響によるものなのか、全国的に豪雪のニュースが続いているところでございます。

当市でも12月1日には24時間降雪で55センチという記録的なドカ雪に見舞われました。その時には積雪深も一気に84センチに達したほか、12月27日には3年ぶりとなります大雪警報が発令されるなど、緊張のあった12月でもありました。

年が明けてから、暖気が重なりまして、小康状態で経過をいたしました。先週末から、断続的に雪が降ったこともありまして、1月30日現在、累計降雪量が514センチ、積雪の深さが97センチと、平年を上回る状況となっております。

これまでも、2月に入ってからの数日間で、一気に背丈を超える雪山ができてしまうようなドカ雪も経験しておりますので、今後も緊張感を持って対応してまいりたいと思っております。

次に、運搬排雪の実施状況でございます。

12月の大雪の影響で、年内にはバス路線と幹線道路の排雪を一通り終わらせ、正月休み明けの1月上旬から、引き続き、センター試験や小・中学校の始業式に合わせて学校周辺の通学路を中心に、計画的に排雪を行い、栗沢の一部を除いて、一巡したところでございます。

路線数と延長につきましては、1月25日現在でございますが、105路線、延べ84キロメートルとなっております。市内では、国道・道道の排雪もほぼ完了していることから、良好な道路状況を確保してまいったところでございます。

先週末からの雪で、幹線道路の中には、雪山が高くなり狭くなった路線も出てきておりますので、今後も、バス路線を中心に雪の降り方に合わせ、鋭意、拡幅作業に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、1月23日、先週でございますが、利根別川の消流雪事業を市内中心部で開始をしております。本日も、利根別川に架かる橋梁から投雪作業を行い、市街地の拡幅作業を実施しているところでございます。

次に、市民雪堆積場における雪の搬入状況でございます。

昨年度から、新たに市内西側に位置する市民向けの雪堆積場といたしまして、「上幌向町雪堆積場」を開設しております。市内4箇所の雪堆積場で、昨年に続き今年も雪を受け入れているところでございます。

12月における雪の降り方の特徴でございますが、市内の東側、そして北側に雪が集中していることが挙げられると思いますが、このことを反映するかのよう、日の出町と岡山町の雪堆積場が、すでに昨年度のトータルの搬入量を超えているところでございます。

なお、いずれの雪堆積場もまだ余力がある状況となっておりますが、積雪深も約1メートルという状況でございますので、今後、屋根の雪下ろしに対する需要が増えてくるものと想定をしているところでございます。

次に苦情・要望等の状況でございます。

この冬はこれまで、これも1月25日現在でございますが、865件の苦情・要望が寄せられておりまして、今年も置き雪に関する苦情が最も多くなっております。置き雪に関する苦情が多いのはこれまでの冬と同様でございますが、道路の左右での不均等、あるいは置かれた雪の量が多いと言った内容のものが多くなっております。

今年の冬の傾向といたしまして、雪が降った後に暖気が入り込みまして、雪が解けるといった状況が繰り返されたことから、道路交通の安全確保のために、路面整正を適宜実施したことで、どうしても置き雪の量が多くなり、苦情につながったのではないかと考えております。

このほか、明け方に降雪が強くなるという状況が今年も見られております。除雪が行われているにも関わらず、未除雪のように見えてしまうことによる苦情も寄せられております。

一方で、パトロールの積み重ねと啓発により、道路への雪だしや雪捨てに関する通報は減少しておりまして、一定の効果が出ているものと考えております。

次に空き家の対応状況でございます。

資料に掲載のとおり、市が把握している管理不全な空き家は200件、前年度に1回目のパトロールを実施した時と比べて3件増えているところでございます。このうち、落雪などのおそれがある119件につきまして、1月10日、17日、18日の3日間でパトロールを実施いたしまして、屋根の形状や積雪の状況、建物の配置などを勘案し、落雪被害のおそれのある10件に対しまして、現地の状況が分かる写真を添付して指導書を送付したところでございます。

このほか、解体されていたものが1件、住家として使用されているものが3件確認でき、残りの105件につきましては、屋根への積雪や危険度の観点から、経過観察としたところでございます。

次に高齢者世帯の雪下ろし助成の登録状況でございます。

登録者数は昨年と比較して8世帯少ない149世帯となっております。そのうち雪下ろしを実施した世帯は7世帯となっております。年が明けてから小康状態が続いていたため、少雪であった昨年とほぼ同数の登録状況となったものと考えております。しかし、先週末からまとまった降雪に見舞われていることから、今後の降雪により雪

下ろし助成への登録や雪下ろしを実施する世帯が増えてくるものと思っております。また、その雪下ろしの登録事業者でございますが、現時点で 21 社となっております。

次に弱者等調査支援活動の対象者の状況でございます。

市では、大雪の際に素早く対応できるよう、昨年 12 月 23 日から活動の準備を整え、この弱者調査と併せまして、市民からの通報により弱者支援を行う緊急支援班も 1 日 2 班の体制を敷いているところでございます。

出動実績といたしましては、現在のところ、一斉調査及び支援は実施をしておりますが、1 月 26 日に屋根雪の落雪により換気口がふさがるとの通報によりまして、緊急支援を 1 件行ったところでございます。

次に人的被害の状況と雪下ろし装備の貸し出し状況でございます。

この冬は昨年末までに 3 件、年が明けてから 4 件の計 7 件、残念ながら雪による事故が発生し、死亡事故が 1 件という状況でございます。死亡事故につきましては、除雪中に自らが操作する除雪機と壁の間に挟まれたものでございまして、残り 6 件のケガの程度につきましては、重傷が 4 件、軽傷が 2 件、さらに重傷のうち 3 件が雪下ろし中に転落したことによるものでございます。

市では、屋根の雪下ろしの際には、「複数人で作業を行う」、「安全装備の装着」、「安全確保に努める」ことなどを、広報等を使って周知をしているところでございます。これまでも、安全装備を装着していたことで転落を免れたという話も聞いておりまして、安全装備をお持ちでない方に対しては、安全帯・ヘルメット・命綱のいわゆる「雪下ろし 3 点セット」の貸し出しを行っておりますので、ぜひご利用いただきたいと思っております。

なお、この冬、ここまで装備の貸し出しはゼロとなっておりますが、今後も降雪があると思われますので、引き続き安全確保のための啓発を行ってまいります。

以上でございます。

## **質疑応答**

### **(毎日新聞)**

空き家対策の関係で、指導書の通知をしたのが 10 件ですけれども、危険ですよという通知をした後の所有者のその後の対応は、どうだったのでしょうか。

### **(総務部長)**

今のところは、まだ確認できておりません。

### **(市長)**

1 月の 10 日、17 日、18 日の 3 日間のパトロールの結果ですので、その後直ちに送付していると思っておりますが、まだその後の状況については確認できていないということです。

### **(毎日新聞)**

対応をしなかった場合は、警告書とか、ワンランク上の通知をするのですか。

**(総務部長)**

あまりにも悪質であればですね。ただ、何回か通知しないと動いていただけないということもありますから、それは重ね重ね行ってまいります。

**(市長)**

なお、危険性が増して、道路をふさぐ等々の場合には、必要最低限の処置をとっています。

**(北海道新聞)**

除排雪の今後の予算の見通しはどうなんでしょうか。

**(市長)**

今後の降雪の状況によっては、排雪経費が焦点になってくると思いますので、事業費内での流用、あるいは予備費の充用、あるいは補正予算も含めて今検討を進めているところです。

**(北海道新聞)**

1月末時点の平年値はどれくらいなんですか。

**(建設部長)**

1月30日時点で、478センチというのが累積の平年値です。積雪が85センチです。3月末までの累積平年値は733センチです。

**(市長)**

現時点で、この後平年並みの降雪が見込まれた場合、7メートル70センチくらいに近づくのではないかと想定しております。

**(プレス空知)**

予算ベースで今どれくらいが消化されているのでしょうか。

**(市長)**

予算執行率ということでしょうか。除雪作業については、年間通して7メートルの設計基準量ですので、終わってみなければ執行率は出てこないのですね。排雪については、84キロ実施をいたしましたので、排雪計画路線89キロですから、それを一通り終えたということでございます。ですから排雪については、今後の降雪、あるいは積雪の状況によっては、必要な作業になってきますので、その予算措置を今検討しているというところです。

**(プレス空知)**

ということは、排雪に関しては89キロベースの予算をみている中で84キロを既に終わっているということは、検討というよりは具体的に取り組むということでの検討ですか。

**(市長)**

排雪に係る経費は雪の状況によっていろいろ変わるので、その隙間だとか、事業費の中で未執行のものもありますので、そこを当て込むだとか、さらには予備費からの充当でカバーできるかとか、補正予算でしっかりとした予算をとるかだとか、降雪が増えて排雪が増えると、今度は雪捨て場の維持管理経費がかかるものですから、トータルで今考えています。

**(プレス空知)**

選択肢の一つとして補正予算を組むかどうかというのも含めた検討もしているということですね。

**(市長)**

2月の上旬くらいにはその方針を固めて、必要な手立てを打ちたいと考えています。

**(プレス空知)**

資料の2枚目の高齢者世帯の雪下ろし助成の登録状況のところの※印で、助成金を申請した世帯は7世帯とあるのですけれども、7世帯、これそれぞれ各世帯ごと1回の申請でしたか。

**(市長)**

要件では1シーズン2回まで認めているんですけど、おそらくこの降雪状況であれば1世帯で2回というところはないんじゃないかと思います。それは後で確認させてください。

## 2 その他について（記者からの質問）

### 質疑応答

**(北海道新聞)**

記者懇談会の前に下水道使用料に関する誤賦課の説明が担当部署からありました。古いもので昭和56年から遡って、最終的に平成27年まで1,695万円の徴収漏れのうち、5年前までしか遡れないので、1,104万円が時効だということでまとまったんですが、ヒューマンエラーがずうっと続いてきたのかなという実態なんですけれども、市長の見解をお伺いいたします。

**(市長)**

残念ながら、長期に渡って、ヒューマンエラーの中にもいろいろあるんですけれども、そういったことが積み重なってきて、こういった事態を招いたことについては、大変遺憾に思っています。もともとの発端は誤賦課という件があって、あらためてその逆のケースもあるのではないかということで、全件調査をやったということなんですけれども、今後につきましては、ヒューマンエラーの原因とミスを起こさない対策、あるいは、さらに全戸調査というのが、かなり必要になってくるかと思っております。そういったことを合わせてしっかり適正に事務を執行していきたいと思っております。

**(プレス空知)**

全体として請求漏れが1,700万円くらいあって、そのうち時効がきて請求できないものが、3分の2の1,100万円とあったんですが、遡及できないのは制度の中で、いたしかたないと思うんですが、結果として1,100万円の入ってくるべきものが入ってこないという状況です。これに対しての何らかの処分というか、何かしら現場の人間に対しての処置、あるいは市長ご自身に対しての判断などお考えがありますでしょうか。

**(市長)**

こういった事案を今後発生しないために、しっかりとした体制を作っていくことがまず基本になるかと思っております。また、責任云々につきましては、今後さらに詳細な調

査もありますから、その状況の中でということになりますが、長期に渡ってミスが起きている場合もあれば、ミスが起きていないケースなど他にもいろいろございますので、まずはしっかりとしたミスを起こさない体制の構築に努力していきたいと思っています。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)